

## 第8学年 家庭科 学習構想案

日 時 令和7年7月14日（月）第5校時  
場 所 8年1組教室  
指導者 教諭 松川 奈央

### 1 単元構想

単元名	安全な住まいで安全な暮らし（開隆堂 p 214～）
単元終了時の生徒の姿（単元のゴールの姿・期待される姿）	
地域の様々な災害に備えて、準備や行動の仕方を工夫し、地域のために貢献する方法を考えようとする生徒	
単元を通した学習課題	本単元で働かせる見方・考え方
災害に備えて、8年生として、地域のためにできることはどんなことだろう。	健康で快適・安全な生活をするためにはどうしたらよいかを考え、地域社会と連携し、よりよい生活を営むために工夫すること。

### 2 本時の学習

（1）目標 これまでに学んだことを踏まえ、災害が起きた時に、8年生として地域のためにできることを考えることができる。

（2）展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される児童の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図、内容、方法等)
導入	5分	1 課題をつかむ。 ①前時までの内容を振り返り、自宅の災害対策について見直す。（ノート p.102 2） ②令和2年7月豪雨直後や日本全国の災害発生後の避難所の写真を提示し、気付いたことを確認する。	○これまでの学習をもとに、自宅の防災について各自で振り返り、準備が必要であることを確認する。 ○様々な写真を提示し、生活の安定や心の安定を考えると不足している、不安だと感じるところに気付くことができるよう支援する。
		【めあて】災害が起きたときに、8年生として地域のためにできることを考えよう。	
展開	32分	2 課題の解決に向けて活動する。 <b>【学習課題】</b> <b>体育館が避難所になったら、8年生のわたしたちにどんなことができるだろう。</b> ①体育館が避難所になるという状況を確認する。 ②できそうなことを個人で考えて、ワークシートに記入する。（共通実践事項1） ③友達と意見を交流する。（共通実践事項2） ④全体に広げる。 <b>【期待される学びの姿】</b> 自分や家族が避難したことを前提に、物理的・心理的な面から、より快適に暮らすことができるように地域のために自分たちができることを考え、意見交流している。	○A、B、Cの段階ごとに考えさせることにより、実際の場面を想定することができるようにする。 ○各自の想定や得意なことなどによって、それぞれの生徒ができそうだと考えることが違ってくるので、状況や写真等で確認しながら、生徒が様々な考えをもつことができるようにする。 <b>【具体的評価規準】態①</b> ○より快適に暮らすことができるように自分にできることを考え、意見交流している。（方法：発言・ワークシート） <b>【到達していない児童への手立て】</b> ○不足しているところや困っているところと一緒に確認する。
		【まとめ】体育館が避難所になったら、物資を配ったり、環境を整えたり、話し相手になったりと、地域のために、わたしたちにできることはたくさんある。	
終末	8分	3 学習を振り返る。 ○今日の振り返りをする。（共通実践事項3）	○振り返りの視点④ ○想定した状況だけでなく、実際に自分が住んでいる地域のことについて考えることができるようにする。

### 3 指導に当たっての留意点

【視点1】「状況を的確に捉え、判断し、主体的に行動する力を身に付ける授業の工夫」

手立て3：子供が自らの意思で表現したり、行動したりする場の設定

○状況を想定し、自分にできることを考え、共有することで、自ら地域に貢献する方法を考えることができるようにする。